

湘南医療大学

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学
所 属 リハビリテーション学科
名 前 下田 栄次
作成日 2026 年 4 月 20 日

1. 教育の責任

教育の責任は、学生の成長と学習を支援し、専門的知識やスキル、そして人間性を育てることにあります。担当科目として、「運動療法学概論」「運動療法学基礎演習」「運動学演習」「運動器系理学療法学演習」などの基幹科目に加え、選択科目の「バリアフリー」「徒手療法」、さらに「チーム医療論」「災害看護学」など、理論から実践までを繋ぐ幅広い科目を担当しています。これらの授業を通じて、理学療法の基本原則や専門的スキルの教授、臨床的判断力の醸成を図っています。また、「バリアフリー」等の科目では、障がい者への理解や理学療法士が社会で果たすべき責任・役割を強調しています。学務面では、チューターとして学生の学習・生活をサポートするほか、保健室担当として学生の健康と福祉に貢献し、理学療法実習室の備品管理を通じて学習環境の整備を行っています。これらの多角的な役割を通じ、学生の将来への準備と成功を支えています。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の教育理念は、個々の学生の成長を支えつつ、専門知識と人間性を結びつけた教育を提供することです。学生中心のアプローチを重視し、主体的な学びを促進することを目指しています。具体的には、理論と実践的スキルの融合のためにケーススタディやシミュレーションを用いたアクティブ・ラーニングを奨励しています。また、専門分野である災害危機管理の知見を活かし、他分野との連携を通じた広い視野(学際的視点)を持つ能力を育成することを大切にしています。さらに、2026 年度からは特に「命を守る」だけでなく「暮らしを支える」支援を見据え、平時から備える「フェーズフリー」の視点を教育に取り入れています。個々の成長を尊重し、学生一人ひとりのニーズに合わせた支援を提供することで、高い専門性と倫理観を持ち、社会に貢献できる理学療法士の育成を目指しています。

2) 理念をもつに至った背景

この理念は、これまでの教育経験、臨床観、および災害医療における活動に基づいています。多くの学生と接する中で、一人ひとりの学習スタイルやニーズが異なることを実感し、情報を伝えるだけでなく自ら学びを深められる環境の必要性を感じてきました。臨床現場では、技術的な能力のみならず、思いやりやコミュニケーション能力、倫理性がいかに重要であるかを学びました。特に私の専門とする災害危機管理においては、他分野との密接な連携が不可欠であり、学際的なアプローチが問題解決能力を向上させるという確信に至っています。2024 年の能登半島地震等の支援経験からは、リハビリテーション専門職が「暮らし」まで含めた広範な役割を担う時代の到来を痛感しました。また、大学が地域防災の拠点となる「神奈川モデル」の実践を通じ、地域社会と直結した教育の重要性を再認識しています。これらの背景から、常に最新の知見を取り入れ、自己研鑽を怠らず、学生に最良の教育を提供し続けることが私の使命であると考えています。

3. 教育の方法・戦略

学生中心のアプローチに基づき、専門知識と人間性を結びつけるため、以下の戦略を箇条書きで実施しています。

- **対話的な教授方法：**講義では一方的な情報伝達を避け、ディスカッションや質疑応答を重視し、学生が自らの考えを深め、意見交換を行う場を構築しています。
- **実践的学びの促進(シミュレーション教育)：**実際のケースやシミュレーション(OSCE の分析等を含む)を通じて、理論を実際の課題解決に適用する臨床推論能力を養います。
- **学際的アプローチと「フェーズフリー」教育：**理学療法の枠を超え、災害福祉や多職種協働(DWAT や JRAT との連携等)の視点を導入し、多様な状況に対応できる能力を育成します。
- **ICT・テクノロジーの活用：**学習支援システム「manaba」をフル活用し、対話的な学習環境の構築、リアルタイムの情報共有、学生同士の交流促進を行っています。
- **地域貢献と直結した教材開発：**「神奈川モデル」による福祉資器材の備蓄・運用など、本学独自の先進的な取り組みを教材化し、地域防災を支える実践力を養います。
- **個別のサポートとフィードバック：**面談や詳細なフィードバックを通じて各学生の進捗を把握し、個々のニーズに応じた適切なアドバイスを行います。
- **国際的・最新知見の反映：**2026 年 4 月に韓国で開催された第 17 回 ACPT(アジア理学療法連盟)大会での発表など、国際的な動向や最新の災害医療研究の成果を授業に反映させています。

これらの方法を組み合わせ、学生が専門家として、また社会の一員として「命と暮らし」を支える力を養えるよう戦略的に取り組んでいます。

4. 学習成果

教育活動および研究活動の成果として、以下の論文や発表を行っています。これらは、災害医療や教育手法に関する知見を学生へ還元する基盤となっています。

- **論文：**障がい者スポーツ施設実習による学生の意識変容に関する共著論文(2026 年)や、能登半島地震災害支援活動報告(2025 年)、中高年登山者の障害予防に関する論文(2025 年)など。
- **学会発表：**第 17 回 ACPT 大会(2026 年、韓国)にて、理学療法学生の災害意識を高める教育的介入について(筆頭演者)、および OSCE における自己評価と客観的評価の関連について(共同演者)発表。
- **外部評価：**地方自治体(横浜市、川崎市、平塚市等)での福祉避難所研修会や災害対策セミナーへの講師招聘を通じ、教育内容の社会的な有用性が認められています。

5. 改善のための努力

- **対話の質的向上:** manaba を用いた双方向性をさらに強化し、学生の主体的参加を促すホームルームやフィードバック体制を継続的にブラッシュアップしています。
- **臨床推論の深化:** より複雑な症例に対するシミュレーション教育を導入し、臨床実践能力の向上を図ります。
- **博士(危機管理学)としての専門性反映:** 取得した学位の専門性を活かし、最新の危機管理理論を理学療法教育に最適化させる努力を続けています。

6. 今後の目標

- **短期目標(2026 年度内):** manaba を活用した対話型学習のさらなる拡充と、ACPT 等で得た国際的な教育知見のカリキュラムへの反映。
- **長期目標:** 担当科目の見直しとブラッシュアップを行い、「フェーズフリー」や「神奈川モデル」を軸とした、全国の先駆けとなる災害リハビリテーション教育体制の確立。学生が国際的な視野を持ち、多様な文化や視点から問題解決に取り組める教育環境の構築に尽力します。

【添付資料】

- **国内・国際活動:** JICA/JDR 隊員、JRAT 本部広報委員、神奈川 DWAT 先遣隊チームリーダー等
- **最新著書:** 『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学(第 7 版)』(2025 年分担執筆)、『リハビリテーション管理学(第 2 版)』(2025 年分担執筆)
- **学術論文・発表:** 2025～2026 年度の最新論文および ACPT 2026、WPC 2025 等の学会発表資料
- **その他:** シラバス、manaba の運用記録、学生アンケート結果等

▶ research map

<https://researchmap.jp/Ray-goodspeed>